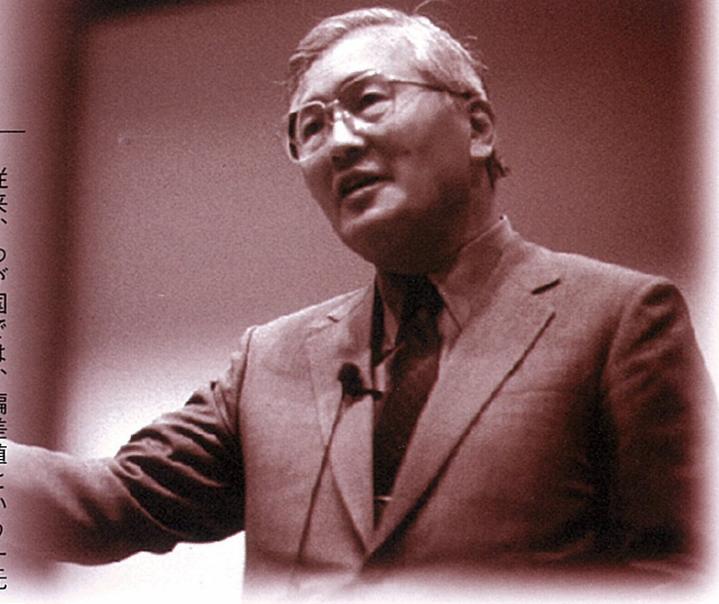


rapport (ラポール) とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。

## 多摩大学 学長 中谷 巖 Monthly Message 01



従来、わが国では、偏差値という一元的な尺度で受験する大学を決めるということが非常に多かったと思います。しかし、出身校ではなく、能力が重視される世の中になるにつれ、大学が提供する教育カリキュラムや教育への取り組みこそが問われる時代になったと思います。

そういった観点から、多摩大学の数々の教育上の取り組みを皆様方にご理解いただく一助として、「多摩大学ラポール」を発行し、皆様方に定期的にお届けすることになりました。知識だけでなくモノの考え方を育む「生き方教育」、誰でも英語でコミュニケーションできるようになる「ネイティブスピーカーによる英語シャワー」の導入、少人数の「ゼミ教育」など、マンモス私大には絶対真似のできない多摩大学独自の価値ある教育カリキュラムや様々なイベントについて、情報発信して参りますので何卒ご期待下さい。

### 「生き方」教育を重視した新プログラム誕生！

2002年4月より多摩大学では、画期的な教育プログラムが始まります。「知識」のみでなく、「知識」プラス「生き方(GPS)」を修得するプログラムで、GPSとは「Global mind」「own Philosophy」「professional Skill」のことで、自らが発案者・実践者となるビジネスの社会では、個々人が十分な能力を発揮するのに必要な資質です。これにより問題を発見し、それを組織的に解決する力が身に付きます。コアとなる2つの授業は次の通りです。

(1) 「生き方」を問うイニシエーション授業「知識詰め込み」から「ものの考え方」を学ぶ場へ！  
学長自身が毎週すべての新入生と生き方について討議したり、学外からも著名な講師を招き、生き方について語ってもらいます。「何のために勉強するのか」「社会貢献はなぜ必要なのか」といった自分自身への問いかけを通じて学生自身が「ものの考え方」を身につけます。

(2) 「Englishシャワー」を浴びよう  
グローバルマインドの育成には、英語は不可欠。毎朝、ネイティブスピーカーによる英語のみによる英語の授業を、1・2年生の必修とします。学生たちは、毎日シャワーのように英語の授業を浴びてから通常科目を受講します。

### 平成14年度入試願書受付中

多摩大学では“本学で伸びる資質と意欲を持った者”を学力にとらわれることなく評価し、独自の教育システムを通して個々の可能性を伸ばすことを目標とした入試方式「チャレンジ入試」を導入いたしました。わが国では初めての全く新しい入試方式の募集開始が間近となりました。また、一般入試II期では上位加点、スポーツや語学等の資格を有する人への実績加点が実施されるほか、成績優秀者

には奨学金の特典も用意されています。

#### ○一般入試II期

- ・募集人数 24名
- ・試験日 3月7日(木)
- ・願書受付期間 2月15日(金)～3月1日(金)
- ・受験科目 必須科目 国語(古文、漢文をのぞく)  
選択科目として外国語、地歴・公民、数学、理科の中から2教科2科目を選択。

#### ○チャレンジ入試

- ・募集人数 12名
- ・試験日 3月8日(金)
- ・願書受付期間 2月15日(金)～3月1日(金)
- ・受験科目 基礎能力+基礎学力、面接

詳しい内容は URL <http://join.tama.ac.jp/> をご覧ください。

願書請求等のお問い合わせ

E-mail : [sumire@tama.ac.jp](mailto:sumire@tama.ac.jp)

TEL : 042-337-7187

FAX : 042-337-7100

多摩大学入試部まで

## <TOPIC①> 出原ゼミNHK大学ロボコン2002出場!

かねてより出原至道助教授のゼミを中心にチャレンジしていたNHK大学ロボコン2002(～ABUアジア太平洋ロボコン代表選考会～【富士山頂をめざせ!】)の2次審査が平成13年12月14日に行われ多摩大学のチーム「プロジェクトK」が無事審査を通過しました。チーム構成は学生3名と教官1名で出原ゼミ生たちは「ロボ魂は根性さえあれば何でもできる」を合い言葉に不眠不休でロボット制作に没頭しました。NHKロボコン2002は全国

の大学から選抜された22の出場チームが与えられた競技課題を基に、アイデアを駆使してロボットを製作し、競技を通じて技術力と独創力を競うイベントです。選考会は3月3日(日)に行われ、その模様は総合テレビとデジタルハイビジョンで放送予定。22の出場チームの大半を理工系大学が占める中、多摩大学チームは経営情報学部チームとして奮闘が期待されています。



日夜続く「プロジェクトK」のロボット制作風景

ホームページ：<http://www.edu.tama.ac.jp/projectK/>

## <TOPIC②> 多摩大学4年生 2年連続学生囲碁日本一を達成!

第38回全日本学生囲碁十傑戦(朝日新聞等主催)が平成13年11月24、25日の両日、東京都千代田区の日本棋院で全国8地区の代表32名が参加して行われ、決勝戦で多摩大学4年の榎尾弘毅君が東京大学の田中康収さんに黒番一目半勝ちし、前年度(平成13年3月17日)の全国日本学生囲碁名人戦の優勝に続き2年連続学生日本一を達成した。

なお、学生囲碁名人戦の決勝の相手は同じ多摩大学の1年松田みこと君(平成12年度の学生本因坊)であった。この結

果、ほぼ2年にまたがり学生囲碁三冠王を多摩大が独占したことになる。

多摩大学囲碁部の歴史は浅く、創立は平成10年4月で、翌11年早くも1部リーグに昇格、秋季関東学生選手権では東大に次いで準優勝するなど、少人数ながら精鋭ぞろいで、その後も東大、慶応、早稲田、東工大など強豪ひしめく関東1部リーグで活躍を続けている。

また、女子部も1年おくれで発足して、平成13年春は見事優勝。秋は惜しくも準優勝と、好成績を収めている。



2年連続学生囲碁日本一を達成した  
榎尾弘毅君(多摩大学4年)

## 多摩大4年生就職決定率95%突破!

春先は薄日がさしていたのに、夏頃よりITバブル崩壊などと言われ、9月のアメリカ同時テロで産業界は一層の不況の底に沈んだ観があった。4年生の就職活動も産業界の沈滞とともに厳しさを増し、大詰めを迎えて振り返ってみれば、前年度と変わらない茨の道だった。そんな中で、多摩大学4年生は、経営情報学が産業のソフト化やブロードバンド時代の追い風を受けていることもあって大健闘し、2002年2月現在で就職決定率は

95%を突破している。例年通り3月の卒業までには、就職希望者全員の内定にこぎつけ、就職決定率100%に達する予定。現代の私塾を自負する多摩大学の1人1人を対象としたきめ細かい就職サポートが実を結んでいる。

<2002年2月1日現在>

就職希望者数 238人(男161人 女77人)

就職決定者数 227人(男156人 女71人)

就職決定率 95.4%

<内定者業種別内訳>

	男	女	計
情報サービス業	46	17	63
小売業	22	10	32
卸売業	21	6	27
製造業	14	6	20
その他サービス業	9	10	19
証券・保険・その他の金融業	8	8	16
自動車販売・その他商業	7	2	9
倉庫・運輸関連業	7	1	8
不動産業	4	4	8
レジャー・旅行・ホテル業	5	2	7
建設業	5	1	6
運輸・通信業	4	1	5
銀行・信託・信用金庫等	2	1	3
教育・医療・非営利団体	1	1	2
地方公務員	1	1	2
計	156	71	227

## ルネッサンスセンターオープン!

2001年10月1日 渋谷マークシティという絶好のロケーションに多摩大学の「ルネッサンスセンター」がオープンいたしました。ユニバーシティ・ルネッサンスの拠点として世に多摩大学をアピールすべく活動を開始しています。社会人高度教育講座や大学院・学部の特別講座が主に夜間ひらかれている他、40歳代のCEOを育てる日本初のプロジェクトや地域ルネッ

サンス活動など、21世紀に活躍できる人材を多摩大学から育てていきたいと思えます。今後ともぜひご期待ください。



ルネッサンスセンターホームページ  
<http://renaissance.tama.ac.jp/>

## 小夏物語スタート

タマ大学のアイドル(?)小夏(コナツ)が大学案内をするWEBアニメが始まりました。ホームページでご覧ください。



小夏物語ホームページ  
<http://join.tama.ac.jp/konatsu/>

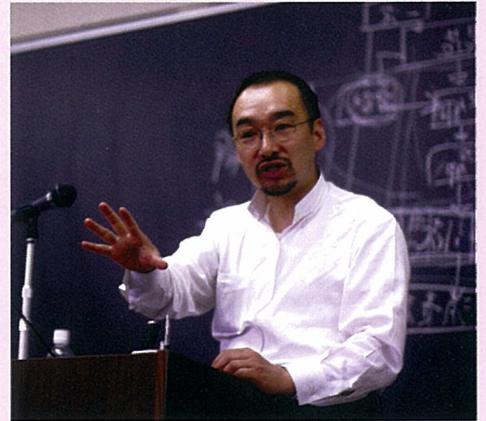
rapport (ラポール) とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。

# Monthly Message 02

## 大学で「学ぶ」のは何のためか?

多摩大学 助教授 NODA Minoru

# 野田 稔



「学ぶこと」の目的について考えてみたことがあるだろうか?

思い返すと私自身そうだったのだが、高校時代までは、学ぶことの目的はやはり「進学準備」だったように思う。しかし、大学で学ぶということは、これとは異なる。大学とは、次の学びの場へのパスポートを手に入れるための勉強を強いるところではなく、今までの学びを集大成して、社会へ出るための体勢を整える、「完結教育の場」なのだ。

大学4年間で、社会に出てから生き抜いていける力を身につけなくてはならない。そうすると、講義・ゼミ活動はもとよりクラブ活動などその他の活動も、自ずと社会に直結した現実的かつ実践的であることが望ましい。

昨年、学園祭で私のゼミは模擬店を開いた。しかし、ただの模擬店ではない。商材選択から生産プロセスや販売体制の設計、売りと生産を直結するサプライチェーンの構築まで、実践さながらの「ベンチャービジネス」疑似体験を行った。春学期に、学んだ理論の実践である。4年間は長いようでは実は大変短い。このわずかな時間を有効に活用して、生きる力を持ったビジネスパーソンを育て上げることこそ、今の私の生きがいである。

## PROJECT

### 「どこでも」プロジェクト展開中

多摩大学では、昨年から1年生全員に無線LANでの利用もできるノートパソコンを貸与し、「どこでも」プロジェクトをスタートさせました。学生たちは教室の中で、自由にノートパソコンを用いながら議論するなど活発に利用していますが、今年の新1年生全員にも同じようにノートパソコンを貸与するとともに、これから学内に必要に応じた無線LAN設備を拡充し、電子クラス運営システムを導入することによって、学生同士だけでなく、どの教室でも学生のPCと教員のPCでコラボレーションができるようになる予定です。いわゆる、「どこでも」on Classの実現で、「経営基礎」「情報基礎」「会計学基礎」などの科目において、どのクラスでもネットワークを活用した講義が展開されることになります。

これは、文部科学省が推進しているサイバーキャンパス構想にも沿っているわけで、多摩大学では将来インターネットを活用して、キャンパス内だけでなく、東京のどこでも、時間外でもクラスやゼミが開講でき、学生と教員

がコラボレーションできる、「どこでも」講義を展開することを考えています。



無線LANを使ったコラボレーション

### 「イングリッシュシャワー」始まる!

いよいよ4月から1、2年生を対象に新規英語プログラム"English Shower"が始まります。"English Shower"を直訳すると「英語のシャワー」ですが、このプログラムに参加すると毎朝シャワーを浴びるように、毎朝「英語」を浴びることになります。この「毎日英語のシャワーを浴びる」プログラムというのはどういうものなのでしょうか?まず、火曜日から金曜日までの毎日、朝登校したら英語の授

業に参加するという構図です。又、少人数(一クラス定員、最高25人)・レベル別指導を行います。入学時にTOEICを受験し、その結果に応じてクラス分けが行われ、その後、1年終了時、2年終了時にも受験し、到達度を見ます。このプログラムでは、英語力だけでなく、コミュニケーション能力を培うことを目標としているので、TOEICを採用しました。

次に、プログラムの学習目標ですが、「英語力」に加え、まず1年次には「コミュニケーション能力」及び「異文化間理解」を柱とし、2年次には一年次に培ったものを土壌に、「経営・情報」英語へと発展していきます。

授業はネイティブを中心とする講師によって、すべて英語で行われます。授業中は講師も学生も「英語厳守」「日本語厳禁」となります。これは決して容易なことではないでしょう。最初は戸惑いも少なくないでしょう。だからといって、日本語で授業をすすめていたら英語が分かるようになるのでしょうか?最初は分からなくて当然です。毎日繰り返し参加しているうちにだんだんと霧が引いたようにすっと分かるようになるはずですよ。

## 多摩大学チーム「プロジェクトK」 NHKロボコン2002特別賞受賞

NHK大学ロボコン2002【富士山頂をめざせ!】のABUアジア太平洋ロボコン代表選考会が平成14年3月3日、代々木国立オリンピック記念青少年総合センター大体育室にて行われた。全国から選ばれた22チームのうち、多摩大学からは出原至道助教授のゼミを中心としたチーム「プロジェクトK」が最終選考会に出場しKONAMI特別賞を受賞した。

最終選考会は競技場の富士山の山並みに見立てた17個の円柱（スポット）にビーチボールを入れ、得点を競うトーナメント方式で行われた。シード権を得た2回戦第3試合、高知工科大学「ロボット倶楽部」と対戦した。多摩大学チームは前夜に立てた作戦通りの場所で富士山に見立てたマシンが見事に相手自動マシンの防御に成功し善戦したが試合終了30秒前、高知工科大学に逆転され3対4で惜敗した。しかし、富士山に見立てたアイデアが評価され見事KONAMI特別賞を受賞した。

この模様は4月13日（土）午後4:00～5:30 NHKデジタルハイビジョンで放送予定となっています。



特別賞に沸く「プロジェクトK」チーム

## 「ビジネスプランコンペ」で協賛企業賞受賞

3月9日川崎市で行われた「大学発ビジネスプラン・コンペかわさき2001」に多摩大学北矢行男ゼミから沖田麗さん、橋本典之君、福井直輝君が参加、協賛企業賞（ケイエスピー賞）を受賞した。出品したのは地元の多摩地域を活性化させるためのビジネスプラン「社会発展型会員制サンドウィッチ移動販売」の企業システム。学

生のランチを利用して地域に分散している大学や学生と地域社会が、基金や会員制のシステムを通して自立しながらも協調しあう仕組みである。学園都市であることをふまえ、学生だからできること、学生自身のためになることの2つにポイントを置きながら、ソシオの概念に基づいた社会貢献型の企業像を描いた。

参加した沖田麗さんらは「今回のコンペを通して、社会に貢献するビジネスプランへの関心の高さを強く感じました。産業社会が変革期を迎える中で求められるのは、活力のある社会を実現するためのアイデアだと思います。それに応えるために頑張りたい」と語っている。

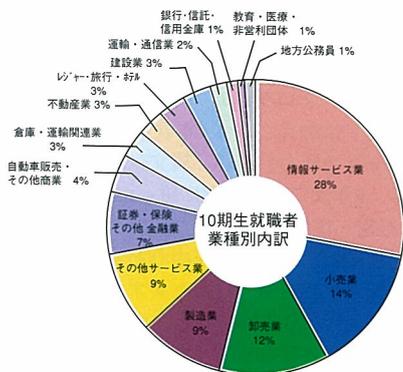


これからの抱負を語る北矢ゼミの3人

# TOPIC

## 10期生卒業、就職決定率98%

例年になく暖かかった冬が去り、早春の陽光が柔らかく降り注ぐ3月20日、多摩大学10期生の卒業式が行われた。中谷学長、クラーク前学長をはじめとする全教職員と数多くの父兄、在校生が見守る中、力強い言葉を残して、265人の10期生が実社会へと旅立った。長引く不況で産業界も大きな転換期を迎えているが、10期生は就職活動にも大奮闘し、最終的に就職決定率98.3%を記録した。大学で修得した経営と情報の基礎知識と情報技術を活かし、現代の私塾である多摩大学の学生生活で培われたベンチャー精神を發揮して、21世紀の社会を先導する役目を果たしてほしいと思う。



2002年3月卒業生数(第10期生) 265人(男161人、女104人)  
就職希望者数 238人(男149人、女89人)  
就職決定者数 234人(男148人、女86人)  
就職決定率 98.3%

## ルネッサンスセンター春期講座受付開始

多摩大学ルネッサンスセンター（渋谷マークシティ WEST 17F）では、時代が要請しているいくつかの重要なテーマを取り上げ、広く社会の知恵を集めながら、ユニークな社会人向けの公開講座を開講しています。それぞれの講座には多摩大学の教員のみならず、それぞれの分野の最先端の研究者、実践者、CEO、芸術家、建築家などが講師を務めています。

現在、中谷学長コーディネートの「社外取締役導入講座」等 2002年春期開講8講座の受講受付を開始しています。詳しくはルネッサンスセンターホームページをご覧ください。

ルネッサンスセンターホームページ: <http://renaissance.tama.ac.jp/>

## 高校生デジタルムービーコンテスト参加募集

多摩大学齋藤ゼミ主催「第3回高校生デジタルムービーコンテスト」では現在参加者を募集しています。今回のテーマは「成長する」。校内の素材を使って3人1チームでテーマに沿った90秒の作品を作ってください。締め切りは平成14年8月20日。8月24日にはセミナーと表彰式を行う予定です。

詳しい情報は「高校生デジタルムービーコンテスト」ホームページをご覧ください。



コンテストホームページ: <http://www.edu.tama.ac.jp/movie/>

## 中谷巖の痛快日記

### アメリカでの「大学探し」

受験生を持つアメリカの父兄が大学を選ぶ基準は、「しっかりした手づくりの教育をしてくれる小さなカレッジ」だそうです。実力がものをいうこれからの日本でも、単に偏差値の高さや有名大学であるかどうかで大学を選ぶのではなく、教育の中身を見極めた「賢い大学選び」が不可欠です。

このコーナーでは毎号 中谷巖学長の一口メッセージをお伝えします。多摩大学、ラポールについてご意見ご感想を<http://www.tama.ac.jp/rapport/>までどしどしお寄せ下さい。

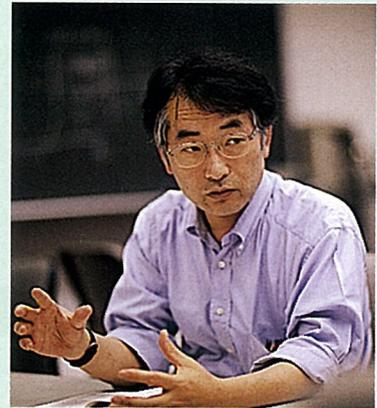
rapport (ラポール) とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。

# Monthly Message 03

自分の価値を探してみよう

多摩大学 経営情報学部  
学部長 TADASHI Imaizumi

## 今泉 忠



今、時代は「個」の時代となり、それぞれ「個」の価値が重視されてきています。これは、他者も大切にすることを意味しています。そのためにも、「学ぶ」場で、それぞれの価値(Value)を探して欲しいと考え、また、探すための指針となるよう多摩大学ではGPSを挙げています。Gは世界で活躍するために必要な「Global mind」です。これは、他の個々人の気持ちをも大切にすることを意味しています。Pは、自分自身を価値ある人とするために必要な「own's Philosophy」です。これは個々人の考え方・信条を重視することです。Sは自分自身の持つ技や能力を具体的に示す「Skill」です。これは、自分自身を客観的に示すためにも必要です。多摩大学で貴方の価値(Value)を探してみませんか

## PROJECT

### 「自己発見」講座始まる！

多摩大学の新たなカリキュラムである「自己発見」講座が始まった。1年生全員の必修科目で、講師陣も中谷蔵学長、田坂広志教授、野田稔助教授を始めとする5～6人で構成され、毎週ダイナミックな講義が展開される。

高校時代までは「学ぶことそのものを目的」としてきた1年生に、大学では今までの学びを集大成し、社会へ出る体制を整えるための勉強の場であることを理解してもらおう。そして、いままでの狭い思考枠を破壊して、「何のために学ぶのか」という学ぶための新しい動機を獲得してもらおうのが「自己発見」講座の目的である。この講義への参加を通して、学生たちはまったく新しい視点で動機付けられた「本当の自分」を発見していくにちがいない。

講義は大きく2つのパートから成り立っている。1つ目はフィールドワーク。自己発見は自らの内面を探求する一方で、集団・社会との関わりの中で自らの存在意義を再確認する作業でもある。この自己発見

の具体的方法論として、フィールドワークにチャレンジする。学生はそれぞれ10人程度のグループを形成し、講義のない時間帯や土曜日などを使って大学が立地する多摩市周辺を歩き、自らの目や耳で地域社会の抱えるさまざまな問題(多摩問題)を発見し、その解決に向けた提案・提言活動を実際に行っていく。いわば、学生自身による「プロジェクトX」である。

2つ目のパートは、「知識を得るための知識」を身につけることである。学生はフィールドワーク・プロジェクトを進めるにあたって、いろいろな問題に直面する。仲間と効果的に意見を交換して議論の場で何かを創造する必要に迫られたり、全く新しい

分野の知識を収集しなくてはならなかったり、自分の意見を見知らぬ大人にプレゼンテーションしなくてはならなかったりするだろう。そんな問題を解決するために、この講義ではインターネットを用いた情報検索の方法から、効果的な会議の進め方(ミーティングマネジメント)技法、魅力的なプレゼンテーション技法、人から意見を聞き出すインタビュー技法など基本的な知の技術を取り上げ、身につけてもらうのである。

多摩大生の「本当の自分」探しの旅がいよいよ始まった！



学生に語りかける中谷学長



フィールドワークの準備をする学生グループ

## 平成14年度入学のつどいが行われる

平成14年度多摩大学入学のつどいは、中谷巖学長自ら学園歌の指導にあたり、新しい多摩大学の幕開けを予感させた。中谷学長は挨拶で332名の新入生に対し、知識だけでなく生き方・考え方といったものを「自己発見」を通じて、一緒に見つけていきたいと語りかけた。また、新入生代表の山田五十鈴さん(愛知・豊田東高校)から、大学では自分の興味のあることをとことん追求していきたいという抱負が、332名の同期の仲間に対して力強く呼びかけられた。



これからの抱負を語る新入生代表山田五十鈴さん

## ルネッサンスセンター 「40歳代CEO育成講座」始まる

多摩大学の知の創発の場であるルネッサンスセンター(渋谷マークシティWEST 17F)で、「40歳代CEO育成講座」が5月18日(土)よりスタートします。40歳代で世界に通用するビジネスリーダーを育成しようという画期的なプログラムで、業界を代表する10数社から将来のCEO(最高経営責任者)候補としてふさわしい人材が20数名受講生として参加、合宿、海外調査などを含めて10ヶ月にわたって修練を積むものです。この講座の特徴は、受講者がそのテーマの専門家であるゲスト講師から「教わる」のではなく、ゲスト講師や同僚に「教える」側に回って知の格闘技を行うこと。受講生は日本や世界、日本企業の構造問題に切り込み、最終的には「自社の構造改革行動プラン」を創り上げることにあります。もちろん、講師陣には、グローバル企業のCEOをはじめ、経営学、芸術、哲学、歴

史学、スポーツなど各分野で卓越した見識と実績を持つ多彩な人々が予定されています。ルネッサンスセンターでは、この「40歳代CEO育成講座」と並行して、「社外取締役導入講座」「マーケティングのためのデータマイニング」など、社会人を対象にした2002年春期講座も開始されます。詳しくは、ルネッサンスセンターホームページをご覧ください。

ルネッサンスセンターホームページ  
<http://renaissance.tama.ac.jp/>



ルネッサンスセンターエントランス

# TOPIC

## 多摩大学オープン授業 ～経営情報はこんなに面白い！～を開講

高校生を対象にしたオープン授業を(5月、6月、7月、10月、11月、12月)開講いたします。

東京ディズニーランド(TDL)、ユニバーサルスタジオ・ジャパン(USJ)と言えば、わが国を代表する「テーマパーク」ですが、あなたも一度は、遊びに訪れたことがあるのではないかと思います。ちなみに、昨年度のゲスト数はTDL(ディズニーシーを含む)2,200万人、USJ1,100万人と発表されており、実に大勢の人が訪れています。

「テーマパーク」には、訪れた人たちが普段の生活を離れてイベントに参加し、体感しそして感動を味わい、また、行ってみたいと思わせる、仕掛けが沢山あります。

なぜ、多くの人たちが「テーマパーク」に遊びに行くのかを考えてみませんか。

今回は「テーマパーク」を対象にして、経営情報の視点から、その運営理念、戦略、情報技術、マーケティングなど、通常、大学で行われている授業の一部をあなたに体験してもらい、一緒に考えたいと思います。

開講日およびテーマは次の通りです。

- <第1回 5月11日(土)>  
杉田 文章(レジャー産業)  
「テーマパーク」には仕掛けがある
- <第2回 6月8日(土)>  
齋藤 裕美(情報デザイン)  
人を引き寄せる「情報デザイン」
- <第3回 7月6日(土)>  
望月 照彦(都市デザイン)  
テーマパークを発明したウォルトディズニー物語

※第4回以降の予定については別紙チラシ、次号でお知らせします。

授業は毎回15:00より50分を予定しております。授業の終了後に教員、職員および在校生と参加者との懇談の時間を設けてあります。

【お問い合わせ・資料請求】  
多摩大学フロンティアセンター(入試グループ)  
電話:042-337-7187  
FAX:042-337-7101  
ホームページ <http://join.tama.ac.jp/>  
i-Modeページ <http://join.tama.ac.jp/i/>

## 高校生デジタルムービーコンテスト参加募集

多摩大学齋藤ゼミ主催「第3回高校生デジタルムービーコンテスト」では現在参加者を募集しています。今回のテーマは「成長する」。校内の素材を使って3人1チームでテーマに沿った90秒の作品を作ってください。締め切りは平成14年8月20日。8月24日にはセミナーと表彰式を行う予定です。

詳しい情報は「高校生デジタルムービーコンテスト」ホームページをご覧ください。



コンテストホームページ: <http://www.edu.tama.ac.jp/movie/>

## 中谷巖の痛快日記

### 「想い」が生む人間の不思議

多摩大学学長 中谷巖

人間が動物と違う点は何でしょうか。動物は本能のままに生活し、やがて死んでいく。しかし、人間は「こうなりたい」と強く想って生きると、想っていたような人間に近づける。これが人間の凄いです。つまり、「人間らしく生きる」ということは、こうなりたいという「想い」を強く持って生活することなのです。

このコーナーでは毎号 中谷巖学長の一口メッセージをお伝えします。多摩大学、ラポールについてご意見ご感想を<http://www.tama.ac.jp/rapport/>までどしどしお寄せ下さい。

rapport (ラポール) とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。

# Monthly Message 04

## 社会を見つめて自分を見つける

多摩大学 助教授 SUGITA Fumiaki

# 杉田文章



「あなたはどんな人ですか」と問うと、「私はプラス思考です」とか、「何事も最後までやり遂げます」とかいった答が多い。でも、これらの自己分析は、あなた自身が進路を決める助けにはなっても、決め手にはならない。では、決め手になるのはなにか。

答えのひとつは「自分は何をしたい人間なのかを知ること」だ。そして、そのために不可欠なのは、社会を広く見て、触れ合うことなのだ。多摩大学は経営の勉強をするところだが、それは実は、実社会そのものを見て、触れて、考えること、そして、具体的な「〇〇したい人間」「〇〇になりたい人間」としてその社会のことを考え、また自分と社会とのつながり方を考えることに他ならないのだ。

フィールドワークを通じて問題を自ら発見し解決する「自己発見」。英語だけで行う「イングリッシュシミュレーション」。また企業で実際に仕事をしつつ勉強する「インターンシップ」制度。多摩大学に用意されているプログラムはどれも、このことを大切に考えたものばかりなのだ。多摩大学に入学したすべての人には、これらの授業を通じて自分を知ってもらいたい。そしてわれわれ教員の仕事は、それを支援することなのだと考えている。

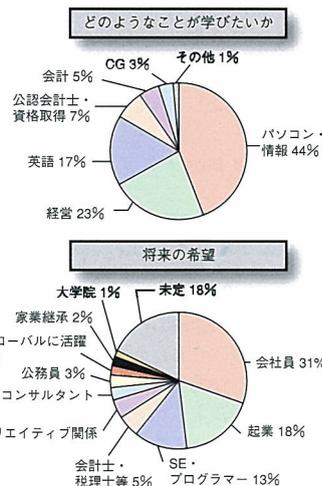
# PROJECT

## 新入生個別懇談行われる！

4月18日から26日にかけて、平成14年度新入生を対象に個別懇談が行われた。昼休みと4限終了後を利用して、主だった事務局職員が新入生一人一人と面談したもの。例年は入学式後にアンケート調査を行っていたが、今年から新入生の声を直接聞いて、より満足度の高い学生サービスに結びつけ、教職員と学生とのコミュニケーションをより密接にしていきたいという意味もあって、一人7～10分の個別懇談が実現した。

個別懇談には新入生332名中208名が参加、「多摩大学でどのようなことを学びたいか」「将来の希望」「多摩大学をどのようにして知ったか」「志望した理由」などを中心に、事務局職員と新入生が熱っぽく語り合う場面も多く見られた。懇談の結果は下記の通りだが、「一人一人を手塩にかけて育てる」ことをモットーにしている多摩大学ゆえ、学生と密接に触れ合い、さまざま意見や考えを聞くことができるこうした機会を今後も積極的に作っていき、教育サー

ビスの一層の充実を図っていきたいと考えている。



足会が行われた。発足会には2期生から現役生まで40人以上集まり、望月先生を囲んだ。

望月ゼミOB/OG会では現役生も含めた新しい「知の交流」を図るための試み『ホープ・ムーン・アカデミー』も行っていく。その中で昨年卒業した遠井利夫さん(10期生)からココファームワイナリーに関する事業について発表があった。事業は栃木県足利市の福祉施設こころみ学園がぶどうから育てたワインを多くの人に紹介するもので遠井さんが中心となって展開し、望月ゼミ、OB/OG会が全面バックアップしていくことになっている。

望月ゼミのホームページ <http://www.edu.tama.ac.jp/semi/cocolomochi/>

## 望月ゼミOB/OG会発足

平成14年5月18日(土) 多摩大学ルネッサンスセンターで望月ゼミOB/OG会発



ココファームについてプレゼンする遠井さん

## 多摩大学大学院 ビジネススクールランキングで第6位

日本経済新聞社が4月中旬に、主要企業118社の人事部門トップを対象に「ビジネススクール調査」を行った。「ビジネススクールで優れている」学校を複数回答で選んでもらったものだが、多摩大学大学院経営情報学研究所が、第6位にランク入りした。第1位は、日本のビジネススクールの草分けである慶応大学大学院経営管理研究科、第2位は、一橋大学大学院国際企業戦略研究科、以下は別表の通りである。開設10年目を迎えた多摩大学大学院の「高度な問題解決力を持った専門職業人」を育てる実践的カリキュラムと多彩な教授陣が産業界から高い評価を受けていることがわかる。ちなみに、この調査に回答した企業の72、3%が、「企業の経営強化のためビジネススクールの充実が必要か」との問いに「思う」と答えていて、産業界のビジネ

スクールに対する期待の大きさを表している

企業が選ぶビジネススクール

1位	慶応大学大学院経営管理研究科
2位	一橋大学大学院国際企業戦略研究科
3位	早稲田大学大学院アジア太平洋研究科
4位	神戸大学大学院経営学研究科
5位	国際大学大学院国際経営学研究科
6位	多摩大学大学院経営情報学研究所
7位	青山大学大学院国際マネジメント研究科
8位	筑波大学大学院ビジネス科学研究科 法政大学大学院社会科学研究科

日経産業新聞2002年4月26日(金)より

## 多摩大学ホームページリニューアル

多摩大学のホームページが平成14年6月1日(土)にリニューアルしました。今回リニューアルしたのは多摩大学トップページ(<http://www.tama.ac.jp/>)、多摩大ふぁん倶楽部(<http://join.tama.ac.jp/>)多摩大学大学院ホームページ(<http://tgs.tama.ac.jp/>)です。

今回大幅にリニューアルしたのが多摩大

ふぁん倶楽部。多摩大学齋藤裕美教授のデザインしたキャラクター“小夏”をナビゲーターに抜擢して今までの入試情報だけでなく、多摩大学経営情報学部の全てをウェブ上で紹介していきます。受験生だけではなく、現役学部生、父兄と多摩大学のファンを沢山増やして多摩大学とみなさんの「コミュニケーションサイト」を目指していきます。

ふぁん倶楽部に登録すると多摩大学の最新情報やイベント情報をメール等でお知らせしています。是非一度アクセスしてみなさんの意見、感想を聞かせてください。



多摩大学トップページ(左) 多摩大ふぁん倶楽部(右)  
※画面は開発中のものです

# TOPIC

## 多摩大学オープン授業 第2回(6月8日開講)

「テーマパーク」と「遊園地」の違いは? 5月11日に開催された第1回オープン授業「テーマパークには仕掛けがある」は、こんな問かけから始まりました。

参加した高校生のみなさんは、「テーマパーク」の運営の仕組みや普段何気なく見過ごしていたことにも、ゲストを楽しませる数々の仕掛けが綿密に施されていることが、次々に解かれて行くと、興味深げに真剣な眼差しで授業に引き込まれ、楽しみながら学ぶことの面白さを体感していました。

講義の終了後は、本学で一番眺望の素晴らしいカフェテラスに場所を移して、用意されたクッキーや飲みものなどをとりながら在校生や教員、職員との懇談のひと時を和やかな雰囲気なかで過ごしました。



カフェテラスで現役学部生との懇談会

第2回オープン授業は6月8日(土)15:00より開始します。テーマは『人を引き寄

せる「情報デザイン」』講師は齋藤裕美教授です。

テーマパークの体験型アトラクションを体験するだけでみなさんは満足ですか? 「テーマパーク」で人気のあるアトラクションのひとつに、バーチャルリアリティを体感することがあります。みなさんが楽しいと感じたアトラクションを、実際にパソコンを使って自分で考えて作ってみることができます。情報をいかに効率的に組み合わせたら、人を楽しませるアトラクションができるかを、一緒に考えて見たいと思います。

是非、事前の申込は必要ありませんので気楽に参加して下さい。

当日は、京王・小田急永山駅よりスクールバス(14:30発、14:50発)を用意していますのでご利用下さい。駅前に誘導員が出てご案内いたします。

<7月予告>7月のオープン授業は、7月6

日(土)に開催いたします。テーマは「テーマパークを発明したウォルトディズニー物語」講師は望月照彦教授です。夢と希望の王国を築いたウォルトディズニーの考えは経営に必要な“美学”に通じるものがあります。そんなウォルトディズニーの一面をわかりやすく教えてください。詳細は別紙チラシ、ホームページをご覧ください。

【お問い合わせ・資料請求】

多摩大学フロンティアセンター(入試グループ)

電話:042-337-7187

FAX:042-337-7101

ホームページ<http://join.tama.ac.jp/>

i-Modeページ<http://join.tama.ac.jp/i/>

## 小夏物語第3話「イデハラゼミ」公開



小夏物語ホームページ: <http://join.tama.ac.jp/konatsu/>

## 中谷巖の痛快日記

育て!40歳代のリーダー。

多摩大学学長 中谷巖

日本では、大企業の社長になるのはだいたい60歳くらい。ところが、欧米や中国の元気の良い企業トップ(CEO)の多くは40歳代だ。グローバルな大競争が激化する中で、60歳代のCEOでは、体力、気力の面で勝つこたない。日本経済新聞やNHKなどでも大きく報道されたが、多摩大学ルネッサンスセンターではこのような問題意識から「40歳代CEO育成講座」を開講した。ソニーなど多くの大企業から派遣された若者を何とか世界に羽ばたかせたいものだ。

このコーナーでは毎号 中谷巖学長の一口メッセージをお伝えします。多摩大学、ラポールについてご意見ご感想を<http://www.tama.ac.jp/rapport/>までどしどしお寄せ下さい。

rapport (ラポール)とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。

# Monthly Message 05

## 健全な批判精神あればこそ

多摩大学 助教授 Idehara Norimichi

# 出原至道



社会に出るまでに、必ず身につけておかなければいけない素養として、健全な批判精神がある。他人の意見を無批判に受け入れることは、直接的にたとえば、怪しげな商品を買わされるといった被害につながるだけではなく、民主主義においては反社会的ですらある。

近年、大量の情報を簡単に手に入れられるようになった。これは、歴史的に見ても大きな変化である。しかし一方で、その取捨選択を正しくできなければ、情報に振り回されてしまう。

高校や大学で学ぶべきことは、単なる知識ではなく、いろいろな世界観・世界の捉え方である。多様な視点を持つことによって、他者の意見を冷静に判断することのできる人間になってもらいたい。

# PROJECT

## サイバーキャンパスの住人になる！

多摩大学メディア&インフォメーション・センター (MIC)では、先進的なキャンパス環境づくりに取り組んでいます。

MSS (メディア・サービス・セクション)では、ブローバンドに対応する環境の実現を目指して、ネットワークの増速計画を推進しています。また、学内に張り巡らされた無線LANの設置によりいつでも (any time)、どこでも (anywhere) ネットワークを利用することができます。これにより、教員と学生、学生間のコミュニケーションが交わされ、世界へと拓かれています。

LSS (ライブラリー・サービス・セクション=図書館)は、さらなる進化を目指して、新図書館システムを導入します。これにより、1. 本学のデジタル・コンテンツ (紀要など) を、検索ページからダイレクトに読むことができます。2. 電子ジャーナルにより、1000タイトル以上の洋雑誌の全文を読むことができま

す。3. 利用状況が確認できるサービスはもちろんのこと、新着資料情報が自動でメールで届く「SDI」機能など、様々なサービスメニューを提供します。

ハイスピードのネットワークと電子図書館の実現で、多摩大学学生はサイバーキャンパスの住人になれるのです。



ハイスピードネットワーク環境の整備されたコンピュータ教室  
MICホームページ: <http://mic.tama.ac.jp/>

## SRC (Student Research Conference) 行われる

平成14年6月13日 (木) ~15日 (土)の間、多摩大学にてSRC (Student Research Conference) が行われました。SRCは学生による、ゼミでの日頃の研究活動の発表・展示するもので今回で8回目となります。

今回は青山浩一郎ゼミ、出原至道ゼミ、今泉忠ゼミ、齋藤裕美ゼミ、諸橋正幸ゼミ、山本義郎ゼミの学生が発表、展示を行いました。

13日、14日には各ゼミより研究内容の展示が行われ、15日には多摩大学112教室においてパソコンを用いたビジュアルプレゼンテーション発表が行われました。『多摩地区の賃貸住宅事情の分析』『ゲーム理論を用いた人とのつきあい方の研究』『「お年寄り」評価におけるグループ差の検証』など研究発表内容はそれぞれのゼミの特色が現れ、発表の後にはディスカッションが活発に行われました。

SRC2002・春ホームページ  
<http://iis.edu.tama.ac.jp/src/>



SRC発表の風景 (112教室)

## 「CRO育成シンポジウム」開催

先進諸国を中心に、新しいビジネス環境の中での「CRO（最高リスク管理責任者）」の役割が注目を浴びています。CROは、CEO（最高経営責任者）と直結し、企業の抱える多種多様なリスクを統合的に発見・計量・管理することで、単にリスク回避を図るだけでなく、リスクを前向きに活用し、利益増加につなげるのが期待されています。

多摩大学大学院では、このCROの育成を目標とした「統合リスク管理講座」（河村幹夫教授）を日本初の試みとして、2001年4月に開設、2002年4月より年間30回に拡充して展開中です。このたびアメリカにおけるこの分野の第一人者であるジョージア大学ビジネススクールのロバート・E・ホイト教授を多摩大学大学院が招待した機会に日本経済新聞社との共催で「CRO育成シンポジウム」を開催いたします。詳細は多摩大学大学院HP (<http://tgs.tama.ac.jp/>) をご覧ください。

<日時>平成14年7月10日（水）14:00~16:30  
<講師>  
Dr.Robert E. Hoyt 氏  
河村幹夫 氏  
片方善治 氏  
<会場>日経ホール  
<受講料>無料

## 内定率50%突破！就職活動も後半戦に

就職活動とは、社会における自分のベストポジションを探すことです。自分にとってのベストポジションを見つけるには自分がどのような人間で何を求めているのかわかっているなければなりません。そのため多摩大学では、実社会を見て触れて考える機会と時間を大切にしています。

1年生ではフィールドワークを通した「自己発見」を必修科目としています。そして3年生から4年生にかけての就職年次では、単に学生の就職活動のための企業求人への斡旋をするのではなく、学生が働くことを深く考え

自分自身を見つめ直し、自分で将来の目標を設定するところから進路決定に至るまで教職員が一丸となって手作りで応援をしています。小規模な大学であるがゆえ、一人ひとりに対する親身の指導ができ、個々の学生の個性や能力を引き出し、時間をかけていっしょに考えています。

平成14年度の大卒企業求人状況は前年度に比べ6.3%減という中で、本学学生は目標を見失うことなく着実に前に進んでいます。全員が夏休みまでの内定獲得を目指して頑張っています。

<7月1日現在>

- 就職希望者220名 就職内定者115名 内定率52%
  - 主な内定先  
八千代銀行、神奈川銀行、三井住友VISAカード、キャンノン販売、日本ビクター、凸版印刷、藤和コミュニティ、住商マシネックス、セブンイレブンジャパン、イトーヨーカ堂、ファーストリテイリング、CSK、クラブツーリズム、エイチ・アイ・エス、アミューズ、ソフトバンクテクノロジー、富士通ビジネスシステム、第一生命情報サービス 他
- <就職情報について： <http://join.tama.ac.jp/recruit/>>

# TOPIC

## 「百聞は一見に如かず」 多摩大学を体験してみませんか！

オープンキャンパス いよいよ始まる。  
<7月~9月に5回開催>

世界中から熱い注目を集め、感動と興奮に湧いた第17回ワールドカップサッカーも、このrapportが皆さんのお手元に届く頃には、1ヶ月にわたって繰り広げられた大会も閉幕し、ホッとされていることと思います。

感動や興奮に間近に接しサッカーに興味を抱かれた人、ますますサッカーが好きになった人もおられると思いますが、やはり、自分から積極的に参加することが関心を高めると共に、興味を深めることにつながるのではないかと思います。

多摩大学では、今年からオープンキャンパスの内容を一新、ゼミ生と指導教授がふだん学んでいるテーマに沿って行う<模擬授業>、自分の考えをいかに的確に伝えるかをロボットを使ってする<体験学習>、在校生からキャンパスライフや授業の様子など生の情報を得られる<交流の場>などを計画しています。経営情報分野の学びを体験しながら、理解を深めてもらえるような参加型プログラムを用意しました。

「百聞は一見に如かず」、皆さんも是非多摩大学に来て、経営情報学の面白さと多摩大学のキャンパスライフを体験してみてください。



カフェテラスで教員、現役学部生との懇談会  
詳細情報：<http://join.tama.ac.jp/experience/>

※来たる、8月5日（月曜日）午前10時~午後5時）に日本武道館で開催される「大学フェア2002」（主催フジテレビジョン他）に多摩大学も参加しています。当日会場に来られる方は、多摩大学のブースにお立ち寄り下さい。入試や学生生活などについての個別相談に担当者がお答えいたします。

<オープンキャンパス日時>

- 7月27日（土）14：00～
- 8月9日（金）10：00～13：00～
- 8月26日（月）10：00～13：00～
- 9月14日（土）14：00～
- 9月28日（土）14：00～

詳細はホームページをご覧ください。

【お問い合わせ・資料請求】

多摩大学フロンティアセンター（入試グループ）  
電話：042-337-7187  
FAX：042-337-7101  
ホームページ <http://join.tama.ac.jp/>  
i-Modeページ <http://join.tama.ac.jp/i/>

## 高校生デジタルムービーコンテスト参加募集



コンテストホームページ：<http://www.edu.tama.ac.jp/movie/>

## 中谷巖の痛快日記

ワールドカップの先に見たもの

多摩大学学長 中谷巖

ワールドカップサッカーが終わった。大変な盛り上がりだったが、なぜこんなに盛り上がったのかというと、国別対抗によるナショナリズムの昂揚が大きかったのに加えて、目的に向かってひたむきに頑張る選手の姿が観客の心をとらえたのではないだろうか。そう、しっかりした人生の目的を持つということこそ、人間を一回りも二回りも大きくする最大の要素である。多摩大学が「気づき」教育に力を入れているのにはそういう意味がある。

このコーナーでは毎号 中谷巖学長の一口メッセージをお伝えします。多摩大学、ラポールについてご意見ご感想を<http://www.tama.ac.jp/rapport/>までどしどしお寄せ下さい。

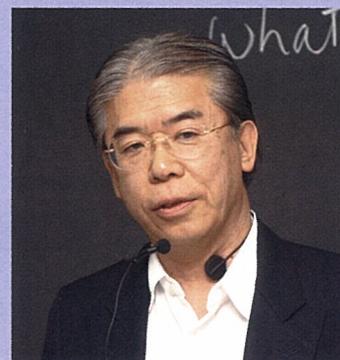
rapport (ラポール)とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。

# Monthly Message 06

「君は今日、何をしたか？」

多摩大学 教授 Kondo Takao

## 近藤隆雄



人の生活は一本の道のようなもので、昨日があつて今日があり、今日があつて明日がある。もし昨日の場所が止まって、前に進まなかったとすれば、今日は昨日と同じ位置にある。そして今日進まなければ明日は今日の位置にあるだろう。また、人の生活では、行き会う他人のように「不条理」に出会う。不条理には「幸運」と「不運」の二種類があるが、人にはその二つともコントロールすることはできない。だから人は、限りある「自分の道」を自分で一歩でも前に歩まなければならない。今日前に進むことで、君の未来を輝かしいものにする可能性があるからだ。君は今日何をしたのだろうか。勉強、スポーツ、デート、何でもかまわない。少しでも前に進むことが出来ただろうか？

# PROJECT

社会から学んだことは多い！  
「自己発見」最終発表大会行われる

「自己発見」は1年生全員の必修科目で、教授陣も中谷蔵学長、田坂広志教授、野田稔助教授を始めとする5～6人で構成され、毎週ダイナミックな講義が展開されてきました。

学生は毎週月曜日の講義の他に、それぞれ10人程度のグループを形成し、講義のない時間帯や土日祭日などを使って大学が立地する多摩市周辺を歩いて自らの目や耳で地域社会の抱えるさまざまな問題(多摩問題)を発見し、その解決に向けた提案・提言活動を実際に行いました。

その最終発表として平成14年7月13日(土)に多摩大学大教室にてフィールドワーク最終発表大会が行われ、9班が最優秀賞を得ました。9班は友常克哉君をリーダーとした10名のチーム。「より良いバス運行を目指して」をテーマにどうしたら多摩市民がバス交通に満足できるのか、どうすればバスを魅力的にできるかを研究、発表しました。

実際に京王バスに対して「マルチカードの提案」「不定運行を補うために携帯電話で遅延情報が閲覧できるよう提案」「鏡を置いて車内環境をよくする提案」を行いました。このうち最後の鏡をおく提

案については京王バス側も検討するとの回答を得られたと発表されました。

大会後のインタビューにリーダーの友常克哉君は「自己発見」の活動を次のように話してくれました。「約3ヶ月という短い時間の中で『問題発見』『問題探求』『問題解決』と3つの段階にチームの活動段階を分け、効率的にフィールドワークを行ってきました。『問題発見』としてテーマを決めるにあたって永山駅、聖蹟桜ヶ丘駅で聞き取り調査を行い、多摩市の問題として『バス問題』を取り上げる市民が多いことを発見しました。その後『問題探求』として府中にある京王バス本社に出向きバス問題についてバス利用者等にアンケートをとる了承をいただき、実際に市民198名の方にアンケートをとりました。とても勇気のいる作業でメンバーもだいぶ戸惑っていたようでした。」

また、研究内容と併せて評価基準となっていたプレゼンテーション能力も高く評価されました。それについて次のように話してくれました。「発表に使ったパワーポイントは大学の情報基礎ではじめて教えてもらったものです。発表のリハーサルも事前に行い、プレゼンターはそれぞれゆっくり、大きな声で話そう注意しました。」

9班は発表最後に自分たちの活動をこう評しました。「社会に影響を与えたことは少ないかもしれないが、社会から学んだことは多い。」このように「自己発見」はひとつの講義にとどまらず他の講義、活動、社会を巻き込んだ多摩大学の春学期の一大イベントとなりました。「自己発見」が多摩大学だけではなく多摩市、そして社会の大きな輪となっていくことが予感される大会となりました。

関連URL <http://join.tama.ac.jp/unique/>



決勝戦の様子(001教室)



中谷学長と優勝した9班のメンバー

## 多摩大学大学院がCRO育成で日本の先駆けに

新しいビジネス環境の中で「CRO（最高リスク管理責任者）」という役割が注目されています。CROは企業が抱える様々なリスクを統合的に発見・計量・管理することで、単にリスクを回避するだけでなく、前向きに活用し、利益増加につなげることが期待されています。

多摩大学大学院では、このCROの育成を目標とした「統合リスク管理講座」（河村幹夫教授）を日本初の試みとして2001年4月に開設し、この4月より年間30回に拡充して展開中です。

多摩大学大学院は、このたびアメリカにおける「統合リスク管理・CRO(最高リスク管理責任者)」の分野で権威のあるジョージア大学ビジネススクールのロバート・E・ホイト教授を日本に招待しました。7月10日には、日経ホールにおいて多摩大学大学院と日本経済新聞社の共催で「CRO育成シンポジウム」を、翌11日には如水会館において多摩大学大学院主催、日本リスクコンサル

タント協会後援で「統合リスクマネジメントセミナー」を開催しました。10日のシンポジウムは、台風6号の接近と重なったため、予定していた参加者数を下回ることが心配されましたが、実際には350名の方々が参加して盛況裡に進めることができました。

そして、7月11日（木）には多摩大学ルネッサンスセンター（渋谷マークシティWEST 17F）において、多摩大学大学院関係者のために特別講義をお願いしました。中谷巖学長はじめ現役大学院生や修了生が出席し、講義は「アメリカにおけるCROの現状と将来の展望」についてオールイングリッシュで進み、質疑応答・意見交換が活発になされました。

多摩大学大学院は、今後、日本におけるCRO教育の先駆けとして、ジョージア大学ビジネススクールと情報や研究成果の交換・共同研究の実施等を進め、CROの育成・研究に力を尽くして行くつもりです。

## ルネッサンスセンター2002秋期講座受付始まる

多摩大学ルネッサンスセンター(渋谷マークシティWEST17F)では、5月より日本初の「40歳代CEO育成講座」を開講中で新聞や雑誌に頻繁に取り上げられる等多方面から注目を浴びています。一方で社会人を対象に経営と情報に関わる分野で高度教育講座を展開し、2002年春期(5月～7月)は「社外取締役導入講座」など5つの講座が大きな成果をあげて終了しました。10月からは「2002年秋期」社会人高度教育講座として、15の新しい講座が開講する予定で、現在幅広く受講生を募集しています。経営情報に関する5つの分野から魅力的な講座を準備したもので、企業人として、アントレプレナー(起業家)として、個人として、生き方に自信をつけたい方、社会人大学院メソッドに触れたい方にはうってつけの内容になっています。講座の詳細と受講申し込み等はルネッサンスセンターホームページ(<http://renaissance.tama.ac.jp/>)をご覧ください。

# TOPIC

## 多摩大生、地元地域に草の根貢献!

多摩大学は名前の通り、多摩地区に立地する大学として、地元地域とさまざまな形で関わってきました。平成14年度になって1年生の新カリキュラム「自己発見」が始まり、グループごとに学生が多摩地域を歩き回り、それぞれが独自に問題点や課題を発見し、その解決法を探っていくという流れの中で、学生たちは市役所をはじめさまざまな公共機関、コミュニティセンター、NPOなどと接触し、交流を深めています。大学自身としても、7月に隣接する稲城市の教育委員会と「教育環境整備のために互いに協力する」という協定を結び、小・中学校教諭の夏季パソコン研修に協力したり、学生を小・中学校の情報教育ボランティアとして派遣したりといった動きを始めています。地域に密着した活動がますます活発になってきたといえるでしょう。

多摩大生の地域密着活動のいくつかを紹介しましょう。まず、多摩市の聖ヶ丘のコミュニティセンターと多摩大学学園祭(雲雀祭)実行委員会との交流。実行委員会に属している学生たちが、コミュニティセンターが主催する防火防災フェアにボランティアとして参加したり、団地自治会主催の「宿題会」(小学生対象)で小学生の夏休みの宿題の手伝いをしたりしています。代わりに、毎年11月に行われる多摩大学学園祭(雲雀祭)に、団地自治会が模擬店を出す予定で、交流の輪が確実に広がっています。

パソコンを教えるボランティアを行っている学生も少なくありません。先に書いたように、稲城

市教育委員会との協定で、9月から稲城市内の小・中学校でコンピュータを使った授業の手伝いをする何人かの学生がいます。また、出原至道助教授のゼミ生たち数人は、多摩市関戸公民館主催の「情報ライブラリー」(水曜、土曜、日曜オープン)で多摩市民にパソコンを教えています。こうした例はまだあって、多摩大生と地域との草の根交流はこれからもいっそう活発になっていくでしょう。

## オープンキャンパスで学長と話そう!

多摩大学2002年オープンキャンパス「生き方、学び方、発見。」が行われます。(事前登録不要)8月9日14:00から中谷巖学長が直接あなたにメッセージを伝えます。大学で何をしなくてはならないのか、学ぶということはどういうことなのかを発見できる多摩大学のオープンキャンパスに是非参加してください。参加すると抽選でデジタルカメラがあたる企画など用意しています。

## <体験授業プログラム>

- 8月9日(金) 10:00～、14:00～  
野田 稔「親父達はなぜプロジェクトXを見て泣くのか」  
白井芳子「イングリッシュシャワーを浴びよう」  
齋藤裕美「デジタルムービーで自分を表現」
- 8月26日(月) 10:00～、14:00～  
杉田文章「Jリーグ夢価値創造への道」  
出原至道「コンピュータを学ぶということ」  
体験ゼミ「現役ゼミ生によるビジネスプレゼンテーション」

体験授業の他、オリジナルうちわ等が作成できるデジタル工房やキャンパスツアー、交流会などがあります。タイムスケジュールなど詳細はホームページをご覧ください。

## 【お問い合わせ・資料請求】

多摩大学ボランティアセンター(入試グループ)  
電話:042-337-7187  
FAX:042-337-7101  
ホームページ <http://join.tama.ac.jp/>  
i-Modeページ <http://join.tama.ac.jp/i/>

## 多摩大学オープンキャンパス

8月9・26日 9月14・28日開催

## 中谷巖の痛快日記

### 日本を救うのは誰か

明治維新の時も、第2次大戦直後の時期も、時代の転換期にあって日本を救ったのは、40歳代の若きリーダーだった。21世紀初頭の日本も、明治維新や終戦直後に匹敵する大きな時代の転換期だ。多摩大学ルネッサンスセンターで開講した「40歳代CEO育成講座」は、何とかしてグローバルに通用する40歳代のビジネスリーダーを育てたいという一心から出てきた企画である。今日も若きリーダー候補生が懸命に研鑽に励んでいる。何とかして、成功させたい多摩大独自の教育プログラムのひとつである。

### 多摩大学学長 中谷巖

このコーナーでは毎号 中谷巖学長の一口メッセージをお伝えします。多摩大学、ラポールについてご意見ご感想を<http://www.tama.ac.jp/rapport/>までどしどしお寄せ下さい。

rapport (ラポール) とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。

# Monthly Message 07

## 「変である」ことの楽しみ方

本来、大学の夏休み期間であるが、ほとんどの時間を新しく出来た多摩大学の都心研究拠点、渋谷マークシティの「ルネッサンスセンター」で過ごしている。オフィス棟に位置しているの、毎日いろいろな方がふらりと立ち寄っていく。ここでお会いする方たちは、皆ほとんど「変」である。自分のしていることを熱く熱く語る。まわりはその「熱」にまきこまれ、いつのまにか「変な人」の集団が事を成している。よく「自分には友達がいらないです」「自分が他の人たちと違っていて溶け込めない」といって悩んでいる学生に会う。私の回答は「別にいいんじゃない。一人を楽しめる時期ってあるよ」である。一人でもパソコン触るのが好き。パソコンでマンガ描くのが好き。プログラミングして立体物を表示させるが好き(つまり誰にどう思われたってかまわない)。「変な人」結構。自信を持って「変である」ことを楽しもうよ。

多摩大学 教授 Saito Hiromi

# 齋藤裕美



## PROJECT

### あなたはどやって大学を選びますか? 教員・学生懇談会開催

平成14年8月9日、多摩大学学生食堂にて教員と学生の懇談会が行われました。今回はなぜ多摩大学を選んだのか、実際に半年授業を受けてみての感想などを聞かせてもらいました。

教員は今泉学部長、諸橋先生、杉田先生、山本先生、臼井先生が参加しました。学生は1年生の市原史恵さん、篠崎久美子さん、鈴木啓介君、本間沙織さん、溝口陽介君、山田五十鈴さんが参加してくれました。

**本間:** 付属の大学があったのですが、パソコンの勉強をしたかったんです。情報系の大学への資料請求をしていたのですが、多摩大学は雰囲気と従兄弟の薦めで決めました。

**山田:** 高校の時から先生とのつながりを大切にしてきましたので小さな大学で先生との接点のある方がいいと思っていました。実際に決めたのはインターネットで検索してホームページを見て直感で決めました。

**篠崎:** 大学を選ぶ際に小さな大学を探していた多摩大学を知りました。多摩大学の事は担任の先生

の方が興味を持っていて実際にオープンキャンパスにも先生が行って来て勧められました。イングリッシュシャワーは多摩大学に入学が決まってから知ったので英語が苦手なのでとてもショックを受けました。ただ、授業を休みたいぐらい英語が本当に嫌いだったのですが、間違えてもいいという雰囲気ですごく進んでくださるので授業を受けることがだいぶ楽になりました。

**鈴木:** 実家が商売をやっていて自分もいつか起業したいと思っていました。経営の勉強のできる大学を探しているときに宮城大学を知ったんです。そのうち、当時の宮城大学で学長をなさっていた野田一夫先生が多摩大学という大学を作ったということがわかって多摩大学に興味を持ちました。実際に大学を見てみるととても小さな大学で自分にあっていると思いました。また、進路指導の先生

が中谷先生の授業を受けた方がいいという強い勧めもあって決めました。

**溝口:** 「若きサムライ達へ (PHP研究所)」を読んで共著の田坂先生 (現在多摩大学大学院教授) と中谷学長の生き方に感銘してこんな先生に教わることができるのであればと多摩大学を選びました。  
**市原:** 大学に行くということが自分にとって本当に必要があるものなのか疑問だったのですが、父の薦めで多摩大学を知りました。多摩大学のパンフレットを見て社会に出るための具体的なスキルや考え方を学べる授業が多くあることに大変興味を持ち、多摩大学を選びました。

懇談会は大いに盛り上がりましたが紙面の関係上一部のみ公開となりました。詳細は多摩大ふぁん倶楽部ホームページで公開する予定です。



左から本間さん、山田さん、篠崎さん



左から鈴木君、溝口君、市原さん

## 出原ゼミIVRC第2次審査突破

出原ゼミがIVRCの2次審査を突破しました。IVRCとは、Interaction and Virtual Reality Contestの略で、IVRC実行委員会(日本VR学会、岐阜県、各務原市、(財)イメージ情報科学研究所)により、1993年より開催されている、バーチャルリアリティをはじめとするインタラクティブな作品のコンテストです。

多摩大学出原ゼミは3年連続本大会出場をはずすなど毎年好成績を残し、本年度も作品



制作中の「MAHO-PEN」出原ゼミにて

名「MAHO-PEN」チーム名「モヒカンズ」として作品出展しています。

「MAHO-PEN」は魔法使い専門学校の生徒であるプレイヤーが魔法のホウキと魔法のペンを駆使して360°のVR空間をホウキを使って動き回ることのできるアトラクションです。特徴的なのが独自のジェスチャー認識によってプレイヤーを操作できることで今までにないゲーム感が得られるとのことです。第3次審査は9月19日、20日にお台場にて行われます。

出原ゼミホームページ：<http://iis.edu.tama.ac.jp/>

## 真夏に英語で汗をかく！

2002年の春学期から新しく導入された「English Shower」は、1年生約300人全員がレベル別に7クラスずつに分かれ、毎週火曜日～金曜日の1、2時限目に英語だけ(日本語一切禁止)で英語の授業を受けるという画期的なカリキュラムです。ほとんどネイティ

ブスピーカーで占められた教師陣の奮闘もあって、4月開始時こそ戸惑っていた学生達も慣れるにしたがい「授業がおもしろい、刺激的だ」と感じる者が増え始め、それとともに学生達の英語コミュニケーション力は目に見えて向上してきました。

こうした上昇気運をいっそう盛り上げ、夏休み中に英語力を集中して磨くために「多摩大学夏季集中英会話講座」が8月1日から7日まで開かれました。受講したのは1年生～4年生の希望者ですが、少人数(13名)制なので、ネイティブスピーカーの教師との間でたっぷりと英会話の時間がとれ、実際の海外旅行での様々なトラブルを克服する良い方法などもしっかりと身につけたようです。

この夏季集中英会話講座は今年が初めての試みですが、大学として受講料の補助を行うだけでなく、年ごとに規模やレベルを充実させていき、やがては海外留学、海外インターンシップへとつなげていきたいと考えています。

# TOPIC

## オープンキャンパスに来てみませんか！

今年の夏はこのほか暑い日が続いています。蝉の鳴き声も一段と賑やかに、さらに暑い夏を感じさせる8月9日(土)多摩大学のオープンキャンパスが開催されました。

オリエンテーションでは、今泉学部長から本学の教育への取り組みについての説明が行われましたが、興味深く聞き入る皆さんの真剣な表情が印象的でした。

模擬授業では、野田稔先生「親父達はなぜプロジェクトXを見て泣くのか」、臼井芳子先生「イングリッシュシャワーを浴びよう」、齋藤裕美先生「デジタルムービーで自分を表現」に分かれ、それぞれ関心のある講義に参加し、熱心にメモを取ったり、コンピュータを操作してオリジナルデザインの制作を試みたり、と授業を通して「学び」の楽しさを体感、発見してもらいました。

また、午後に行われたオリエンテーションでは、中谷学長が「生き方」について参加された皆さんに語りかけ、「なにを、どう学ぶかが重要」とのメッセージとエールが送られました。交流会では軽



オリエンテーションで生き方について語る中谷学長

食や飲み物を取りながら在学生との歓談が行われ、至るところで親しみのこもった会話の様子が見られて、楽しい雰囲気に包まれていました。

この他キャンパスツアーや自分の写真を「うちわ」に印刷して持ち帰る「デジタル工房」などの企画も好評で参加された皆さんからは「授業は分かりやすく、内容に感動した」、「在学生の対応が良かった」、「先生やスタッフの方と親しく話せた」、「楽しく時間が過ごせた」などの感想を聞くことができました。

9月のオープンキャンパス

9月14日(土) 14:00～17:00

模擬授業 近藤隆雄先生「自分を知る～社会心理学的アプローチ」

9月28日(土) 14:00～17:00

模擬授業 諸橋正幸先生「アドベンチャーゲームを作る」

両日ともに、体験ゼミ「現役ゼミ生によるビジネスプレゼンテーション」および推薦入試対策「多摩大学の小論文/面接のポイント」を開催いたしております。奮ってのご参加をお待ちいたしております。

## 代々木ゼミナール有名講師による入試対策講座の開催

大学受験に直面している方、これから受験にどう取り組むかを考え始めた方たちのために代々木ゼミナールの講師が賢い受験勉強のやり方を説明します。事前の申込は必要ありませんので是非ご参加下さい。

日時 平成14年10月13日(日)

13:00～

場所 多摩大学 001教室

対象 高校生および受験生

テーマ 「合格に結びつく賢い受験勉強のやり方」

～最新入試傾向を踏まえて～

講師 代々木ゼミナール英語科講師 坂本英知先生

【お問い合わせ・資料請求】

多摩大学フロンティアセンター(入試グループ)

電話：042-337-7187

FAX：042-337-7101

ホームページ <http://join.tama.ac.jp/>

i-Modeページ <http://join.tama.ac.jp/i/>

## 中谷巖の痛快日記

### 中国を正しく理解しよう

多摩大学学長 中谷巖

多摩大学が渋谷マークシティにある多摩大学ルネッサンスセンターで開講している「40歳代CEO育成講座」のメンバーとともに、中国の西安、ウルムチ、成都、上海を訪問。中国人のエネルギーのすごさは40、50年前の日本のようだ。日本と違うところは、これら主要都市が日本のように同質的でなく、それぞれが独立した国家のような分断された印象を与えるという点だ。中国を日本を見るのと同じ感覚で見ているとんでもない間違いを犯すが、これもその一例ではないだろうか。

このコーナーでは毎号 中谷巖学長の一口メッセージをお伝えします。多摩大学、ラポールについてご意見ご感想を<http://www.tama.ac.jp/rapport/>までどしどしお寄せ下さい。

rapport (ラポール) とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。

# Monthly Message 08

今あればこそ、今生きてこそ

多摩大学 教授 Aoyama Koichiro

## 青山浩一郎



証券アナリストの資格試験は、司法試験や公認会計士試験とならぶ難関だが、このごろ日本証券アナリスト協会の一次レベル検定試験に挑戦する学生がふえている。この資格は金融・証券界ではどんな部署にありうとも必要だが、最近是一般産業界の受験者も多くなった。だが、二次レベルも通って資格を取るには数年はかかる。

受験のためには、年八回おくられてくる協会の通信講座を受けなければならぬ。多摩大学では、四年前から毎年一次レベルの合格者をだしているが、今年度は通信講座を十一名が申し込んでいる。経済学部でも商学部でもない多摩大学だから、十一名はすくない人数ではない。来年の一次レベルの合格発表が楽しみだ。

たとえ合格しなくてもよい、勉強をしてみようと思ったことは貴重だ。就職してからよりも、今のほうがやりやすいことがある。今ほじめるべきことがある。

それが高いハードルであっても目標にいどむ姿はうつくしい。

# PROJECT

## シリコンバレー研修で大きな成果

シリコンバレー研修が平成14年9月15日から9月23日の9日間にわたって行われました。シリコンバレーとは、アメリカ、カリフォルニア州、サンフランシスコ郊外にあるハイテク企業の集積する地域です。飯田健雄教授に引率された多摩大学13名が参加したわけですが、彼らにとっては、日本では絶対といってよいほど得がたい経験をしました。

訪問企業はシスコ・システムズ、NEC、サンマイクロシステムズ、ユニオン・バンクでした。ほとんどの学生がシスコ・システムズの敷地の広さに度肝を抜かれたと思います。サンマイクロシステムズでは、あと2~3年後に日本でもビジネス化されるであろう製品のデモンストレーションを視察することができました。

一方、大学も訪問し、スタンフォード大学ビジネススクールではベンチャー・キャピタリストのシーゲル博士から1時間の講義を受けました。全く夢のような1時間の講義でありました。また、サンフランシスコ州立大学では、シリコンバレーの特徴をシメオン助教

から講義を受けました。これらの講義はいずれも英語で、幾人かの学生たちも英語で質問していました。

また、政府系のジェットロ・インキュベーション・センターも訪問し、中小企業レベルでのIPO戦略(株式公開)の講義をうけました。さらには、日本の銀行を辞め、50歳からシリコンバレーでベンチャー・アクセスという会社を起業した安藤茂さんのお話を聞く機会も得ました。パロアルトという高級住宅地にある私宅を訪問させて頂いたわけですが、安藤さんの生き方に共鳴した学生もいたと思います。

サンフランシスコ滞在中は研修づくめで土曜日の1日だけが自由時間という強行日程でしたが、参加した全員が病気や事故に巻き込

まれることもなく充実した研修を体験できました。

参加した学生諸君に感想を聞くと、ほとんどの学生が自分の持つ国際的視野の狭さや語学力の貧弱さを痛感していました。学生諸君には、この研修をバネにより大きな知的好奇心やよりとぎすまされた経営感覚の涵養に期待しています。彼らには一生に残る思い出となったでしょう。

こうして2002年度のシリコンバレー研修は無事終了したわけですが、来年度も計画していますので是非興味のある学生諸君は参加してください。



スタンフォード大学ビジネススクール講義風景



飯田教授(下段左から3番目)と参加者13名

## 出原ゼミIVRC東京予選トップ通過

平成14年9月19日 東京台場で行われたIVRC 第10回バーチャルリアリティコンテスト東京予選大会で多摩大学出原ゼミ(チーム名モヒカンズ)がトップ通過を果たしました。

IVRCとは、Interaction and Virtual Reality Contestの略で、IVRC実行委員会(日本VR学会、岐阜県、各務原市、(財)イメージ情報科学研究所)により、1993年より開催されている、バーチャルリアリティをはじめとするインタラクティブな作品のコンテストです。

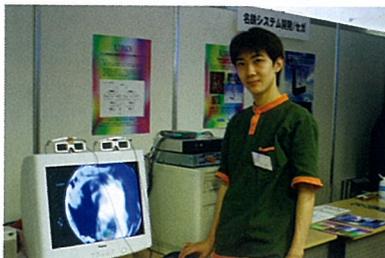


出原助教(左から2番目)とゼミメンバー

多摩大学出原ゼミは3年連続本大会出場を果たすなど毎年好成績を残し、本年度も作品名「MAHO-PEN ～必修2単位～」チーム名「モヒカンズ」として作品出展しました。

「MAHO-PEN」は魔法使い専門学校の生徒であるプレイヤーが魔法のホウキと魔法のペンを駆使して360°のVR空間をホウキを使って動き回ることのできるアトラクションです。特徴的なのが独自のジェスチャー認識によってプレイヤーを操作できることで今までにないゲーム感が得られます。

東京大会トップ通過を果たした多摩大学「モヒカンズ」は11月29日、30日に岐阜本大



3DVRミドルウェアのデモを展示している高橋君(4年生)

会に出場して日本一を目指します。

また、同会場で行われていた第7回日本バーチャルリアリティ学会大会ではセガブースで多摩大学4年生高橋誠史君(出原ゼミ)が3Dでのバーチャルリアリティプログラミングの開発が容易に行うことのできるミドルウェアの展示を行い、多くの注目を集めていました。

## 夏休みゼミ合宿行われる

今年の夏休みも各ゼミで合宿が行われました。

望月照彦ゼミではゼミ全体でプロジェクトを進めている栃木県足利市にあるココファームワイナリーで合宿を行い、地元起業家の人たちとのディスカッションなどが行われました。

また、野田稔ゼミは河口湖 サニービレッジにて合宿を行いました。実際に企業の方を招いて話を聞いてこれからのゼミ活動の進め方などが話し合われました。

# TOPIC

## ビジネスインターンシップに 3年生39名が参加

多摩大学ではビジネスインターンシップ制度を平成11年度より設けています。この制度は企業での就業体験を通じ、しっかりとした職業観・労働観を学生に身につけさせ、将来の職業選択に役立てることを目的としています。

本学では経営情報学部という性格上、主に情報システム・情報サービス関連企業において実習を行っており、選択単位(企業実習)として2単位が認められています。導入4年目の今年度も35社で39名の学生が参加しました。この中の一人は、日独協会主催によるインターンシップに参加し、ドイツにて企業実習を行いました。

参加した学生達は、当初の緊張を乗り越え、社員の方々とコミュニケーションを図り実際の業務への参加を通して、「くたくたに疲れたけれど、アルバイトとは違う充実した時間だった」など短い期間の中で得難い貴重な体験をしています。

近年、フリーター志向者や短期離職者の増加が社会問題として顕在化する一方で、自主的な職業選択力を身につけ、生の企業社会を体験できるインターンシップ制度は年々有意義なものとなっています。現在では全国の大学の約38%でインターンシップを実施しています。多摩大生は企業側からも好評を得ており、次年度以降もこの制度を一層活発にして行く予定です。

参加者 39名(男子17名、女子22名)  
(※男子の内1名は、日独協会主催のインターンシップに参加)

### 主な実習先企業

アコム、アルゴ21、さくら情報システム、サン・マイクロシステムズ、綜警情報システム、データ通信システム、日本情報通信、丸善など

## 10月以降の多摩大学のイベント

多摩大学では10月以降も高校生・受験生対象のイベントを行っています。是非参加してください。

### <オープン授業(経営情報はこんなに面白い)>

- 10月12日(土) 第4回  
近藤隆雄教授『ディズニーランドの楽しさ創造システム』
- 11月9日(土) 第5回  
諸橋正幸教授『コンピュータが作る夢世界』
- 12月21日(土) 第6回  
今泉 忠教授『「テーマパーク」を経営情報で斬る!』

### <入試対策講座>

- 10月13日(日)  
代ゼミ有名講師による入試対策講座

### <学園祭>

- 11月2日(土) 3日(日)

詳細はホームページ(<http://join.tama.ac.jp/>)または多摩大学フロンティアセンター(042-337-7187)までお問い合わせください。

### <田村学園概要>

多摩大学を経営している学校法人田村学園は私立学校として、積極的に情報開示をしていきたいと思います。最新の田村学園概要は以下の通りになっています。

学生・生徒等(人)		キャンパス面積(m <sup>2</sup> )	
田村学園 全体	4,185	田村学園全体	109,047
多摩大学 学部	1,378	多摩大学	30,538
多摩大学 大学院	90	その他	78,509
高校(2)・中学(2)・幼稚園(3)	2,717		
以上 平成14年5月1日現在			
収入(百万円)			
	多摩大学	その他	合計
授業料等	1,385	1,378	2,763
補助金	169	838	1,007
資産運用	3	6	9
事業収入	18	10	28
寄付金	31	8	39
その他	34	81	115
合計	1,640	2,321	3,961
支出(百万円)			
	多摩大学	その他	合計
人件費	767	1,336	2,103
教育研究費	710	598	1,308
管理経費	289	201	490
借入金利息	1	33	34
その他	0	19	19
合計	1,767	2,187	3,954
以上 平成13年度財政収支			

## 中谷巖の痛快日記

### 企業の不祥事をどう防ぐか

多摩大学学長 中谷巖

最近、東京電力や日本ハムなど、日本の大手企業の不祥事が目立つ。問題の発覚はほとんどが内部告発だが、内部告発が起きるまで不祥事が発覚しないのは何とも情けない。社内には不祥事を止める抑止能力がないのだ。多摩大学ルネッサンスセンターでは、日本企業の統治(ガバナンス)のあり方について公開講座を開催したばかりだが、今後、企業統治は日本企業にとって最大の経営課題になるだろう。

このコーナーでは毎号 中谷巖学長の一口メッセージをお伝えします。多摩大学、ラポールについてご意見ご感想を<http://www.tama.ac.jp/rapport/>までどしどしお寄せ下さい。

rapport (ラポール) とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。

# Monthly Message 09

## 「発見」は興味を持つことから始まる

多摩大学 教授 Morohashi Masayuki

# 諸橋正幸



日本を元氣付けるニュースとして、日本人によるノーベル賞同時受賞が話題になっている。ノーベル賞というと、我々にとって縁遠い存在のように思えるが、日常生活の中で何かを発見したり、まだ誰もやっていないことを試してみたり、いったことは、その重要さを問題にしなければ、我々も体験していることなのである。ただ、多くの場合は、本人の記憶にすら残らずに終わってしまう。

それでは、大きな発見や偉大な試みはどのようにしたら実現できるのだろうか？

答えはただ一つ。その対象に普段から興味を持つことである。普段から興味を持っている事柄なら、その話題の中で新しいものを見つけたときの興奮は大きく、その体験は長く心に残る。また、そうした印象深い体験は、他人にも披露したくなるものだ。他人にも強い印象を与えるには、より客観的に「発見した」との価値を訴える工夫がいる。学問の世界でも、ビジネスの世界でも、こうした活動が周りの評価に繋がっている。

国語辞典の編纂で有名な見坊豪紀先生は、新聞や雑誌の中から新しい言葉や表現を日々記録することを生涯の趣味とされていたが、その膨大な資料の中から、言葉の語源や使い方の実例が彼の辞書作りに活かされたのである。対象は何でもよい。諸君も興味を持てるものを見つけて、他人に自慢のできるものを「発見」しようではないか。

# PROJECT

## 図書館システム「CARIN (かりん)」稼働開始

多摩大学図書館では多様化するサービスの充実を図るため、図書館システム「CARIN (かりん)」の導入を進めてきました。システム稼働のテストが終わると、いよいよ11月上旬よりシステムが本稼働します。

何が変わるのか？ (サービスは順次開始します)

1. 所蔵検索が格段に高速化します。また、雑誌、社史などほとんどの資料が検索できるようになります。
2. NII (国立情報学研究所) との横断検索により、自館に所蔵していない資料も一度で検索



CARIN利用者ログイン画面

3. 利用者自身の貸出状況や予約状況の照会がネットワークを介していつでも見られます。
4. 事前にテーマ (主題) を登録しておくことにより、そのテーマに関する新刊が配架されると、メールで情報を受け取ることができます。
5. 携帯電話 (i-mode) から蔵書検索などのサービスが受けられます。

## ネットワークがスピードアップ！ —ますます充実する教育環境—

校内ネットワークとインターネットを結ぶ通信回線速度を1.5Mbpsから10Mbpsにスピードアップしました。さらに、校内無線LANアクセスポイント増設工事 (75台) が終了し、キャンパスライフの中でいつでも好きなときにノートPCを開きネットワークを利用できます。また、多摩大学の施設として渋谷ルネッサンスセンターと多摩大学大学院目黒ビルがありますが、こちらのネットワークも128Kbpsから100Mbpsにスピードアップしました。その他、101,201,211,212教室に最新のプレゼンテーションシステムの導入や、学内各所に授業の様子やその他の情報等を表示

する大画面プラズマディスプレイを設置し、一歩進んだ教育環境の充実を図っています。多摩大学が目指すサイバーキャンパス化に大きく近づいたといえるでしょう。

詳細はmic ホームページ (<http://mic.tama.ac.jp/>)



最新のプレゼンテーションシステム(201教室)



学生ラウンジから授業の様子、情報が見ることができる

## 「ベンチャー企業経営論」開講！

10月16日から、多摩大学総合研究所主催の公開講座「ベンチャー企業経営論」が始まりました。

平成8年度からスタートしたこの講座は、今年7回目を迎えます。社会的にもベンチャーを学際的に取り上げる大学がまだほとんどなかった当時、本学の「ベンチャー企業経営論」は、起業家支援を明確に打ち出した先駆的なものでした。

学部の履修科目としても位置付けられるこの講座は、社会人・他大学生と本学学生と一緒に受講するもので、社会人参加者の便宜を図るべく、「開講時間は夜・会場は都心」で行われます。

本年度の講義予定は、右記のとおりですが、毎回エネルギーな講義と80名の受講者の熱気で会場は盛り上がっています。今年の講座は、前半は講義主体で理論と実例を学び、具体的な起業プランを作りながら、グループワーキングを中心に最終2回で創業疑似体験をしていきます。

残る講義は6回となりましたが、受講者のビジネスプランの中から多摩大学のビル・ゲイツや孫正義が生まれるかもしれません・・・？

### <ベンチャー企業経営論講義予定>

日時	講義内容	講師
10/16(水)	オリエンテーション —ベンチャービジネスを起こすとは？—	多摩大学助教授 野田 稔
10/23(水)	実践的戦略構築技法「戦略の構図」	多摩大学助教授 多摩大学総合研究所所長 北矢 行男
10/30(水)	ITビジネスモデルの作り方	多摩大学助教授 星野 克美
11/6(水)	ベンチャー起業家に学ぶ	エイ・シー・アイ社長 光吉 俊二
11/13(水)	ベンチャービジネス最新情報 —もし自分が創業するなら—	リクルート 「アントレ」編集長 野村 滋
11/20(水)	ベンチャービジネスのファイナンス戦略	Nomura International (Hong Kong) Ltd. Director 中川 雅博
11/27(水)	ベンチャービジネスの人材マネジメント —「知行合一」型リーダーの条件	多摩大学非常勤講師・ 市川アソシエイツ代表 市川 周
11/29(金) 11/30(土)	ベンチャー創業の疑似体験	多摩大学助教授 野田 稔 他

## 多摩大生タマちゃんソングでCDデビュー

11月21日に多摩大学4年生香取良美さんが「タマちゃんが来た夏」でボーカルグループ「風の子」としてティチクからCDデビューします。

この曲は今年の夏に多摩川で話題となったアゴヒゲアザラシのタマちゃんを歌ったもので作詞作曲は鍋島呂夢氏。タマちゃんソングは「新童謡」のジャンルとして多方面からも注目を集めています。

## 多摩大学シンポジウム開催

11月24日(日)に多摩大学シンポジウムを「今、求められる教育改革とは—多摩大学の果たす役割」をテーマに多摩大学ルネッサンスセンターにて開催いたします。詳細・お申し込みは多摩大学ホームページまたはフロンティアセンターまでお問い合わせください。

URL:<http://www.tama.ac.jp/> TEL 042-337-7187

# TOPIC

## 内定率100%に向け、就職活動も大詰め！

就職活動は基本的に自分自身の問題で自分のためにやることです。だから、自分の力で目標を決めてその道を切り拓き、最優先で努力をしないとなかなか結果が伴いません。しかし、努力をすれば多摩大学では必ず報われています。

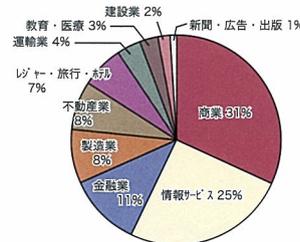
なぜなら、半数以上の教職員が産業界・実業界の出身者で、「働く」ということについて実体験を持っているので、自分の言葉で就職年次生に語るができます。また、いままでの経験をもとに各業界に幅広いネットワークをもっており、それを切り口に学生達を支援して結果として内定をいただくケースも多々あります。

今年度は11月1日現在内定率85%で、今年も内定率100%に向け、これから大詰めを迎えるところです。この超氷河期において驚異的な数字ですが、それは、(1)学生のやる気を育てる環境、(2)教職員一丸の支援体制、(3)産業界とのネットワークを考えれば当然のことであり、他大学と比較して非常に恵まれた大学と言えるでしょう。

<11月1日現在>

- 就職希望者220名 就職内定者188名 内定率85%
- 主な内定先 新菱冷熱、NECシステム建設、伊藤園、日本ビクター、電気化学工業、サンウェブ工業、凸版印刷、キャノン販売、住商マシックス、ナラサキ産業、富士通ビジネスシステム、西武百貨店、イトーヨーカ堂、セブンイレブンジャパン、ファーストリテイリング、八千代銀行、ニッセイ同和損保、共栄火災海上、三井住友カード、スターツ、藤和コミュニティ、アクセス通信、アミューズ、クラブツーリズム、エイチ・アイ・エス、CSK、ソフトバンクテクノロジー、第一生命情報サービス、日立公共システムサービス、富士通サポートアンドサービス 他

### <平成14年度内定者業種別内訳>



## 「第4回オープン授業」「入試対策講座」開催

秋空がより高く蒼く澄みわたった10月12日(土)、第4回多摩大学オープン授業「ディズニーランドの“楽しさ”創造システム」が行われました。講義は近藤隆雄教授から「サービス・マネジメントの考え方」をもとに、サービス・マネジメントにおける「サービス」とはなにか、についてやさしく説明。続いて「ディズニーランドの10の謎を解き明かす」のテーマに沿い「ディズニーランド

の人気の秘密が」次々に解明されていきました。

翌13日(日)には「代ゼミ有名講師による「入試対策講座」」を実施しました。本学として初めての試みとなる今回の開催は、代々木ゼミナール英語科坂本英知先生を講師に迎え、広く大学受験に関心を持っている皆さんを対象に、「大学入試」に臨む心構えや入試の傾向などについて、話していただきました。

次回第5回オープン授業は諸橋正幸先生の「コンピュータが作る夢社会」で11月9日(土)午後3時から開始します。

### <平成15年度一般推薦入試>

募集人数	試験科目	願書受付	試験日	合格発表
30名	小論文 面接	11/1(金) ~ 11/12(火)	11/16(土)	12/5(木)

入試についての詳細はホームページ (<http://join.tama.ac.jp/>) または多摩大学フロンティアセンター (042-337-7187) までお問い合わせください。

## 中谷巖の痛快日記

### 国家主権の意識はどこへ？

多摩大学学長 中谷巖

北朝鮮の日本人拉致事件はどうもすっきりしない。まず、外務省の局長が当時の田中真紀子外相に一切相談することなく、小泉訪朝をお膳立てしたという点だ。こんな大事なことを自分のボスに相談もしないで、官僚が独走するのは明らかに民主主義の原則に反する。もうひとつは、北朝鮮が拉致を認めたその瞬間から、拉致された人の身柄は日本政府が確保すべきなのに、依然として北朝鮮が主導権を握っていることだ。日本人は当然持つべき国家主権の意識すら失ってしまったのだろうか。

このコーナーでは毎号中谷巖学長の一口メッセージをお伝えします。多摩大学、ラポールについてご意見ご感想を<http://www.tama.ac.jp/rapport/>までどしどしお寄せ下さい。

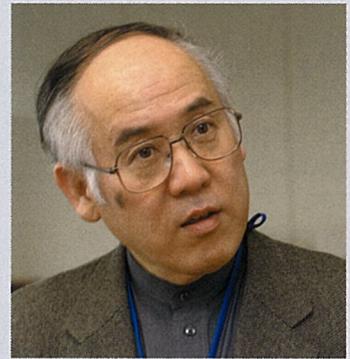
rapport (ラポール) とは仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。

# Monthly Message 10

## 「日米野球」考

多摩大学 教授 Kitaya Yukio

# 北矢行男



野球の評論を仕事にしていることもあり、日米野球の初戦と最終戦を見にいった。そこで、日米野球の終わりの始まりが本格化したことを痛感した。数年後の日米野球の大リーグチームのメンバーに両松井、イチロー、佐々木、大野、野茂、石井など日本人選手が勢揃いしてしまったら、もはや日米決戦というコンセプトが成立しないからである。

皮肉なことに、今回の日米野球は、大リーグの凄さを誇示するプロモーションの場となり、有望日本選手の品定めとなった。大リーグの日本市場開拓のためのマーケティング費用を最大の被害者である読売巨人が負担するという構図である。国内の一流選手の流出が常態化すれば、日本プロ野球はよりローカルでマイナーなコンテンツに墮す。もはや大リーグと一体化するしかサイバールの道はないだろう。

## NEWS

### 多摩大学学園祭開かれる

多摩大学学園祭「雲雀祭（ひばりさい）」が平成14年11月2日(土),3日(日)に開催されました。今年は天気に恵まれ、来場者も昨年に比べて増えました。

メイン会場となるアリーナではサークル、有志団体が屋台を出し、やさそば、たこ焼きなど定番のメニューから、きりたんぼ、肉まんドッグなど多摩大学の学生が企画した珍しい屋台が並びました。屋外では野田稔ゼミの「BAR & アジアンラップ」が注目を集めていました。アジアをイメージした屋台には置物や音楽、衣装にいたるまで全体のイメージを統一された店づくりがなされていました。野田ゼミは毎年学園祭の模擬店をひとつのビジネスと位置づけて、自分たちの研究内容と照らし合わせて店を出店しています。料理も16種類の本格的なカクテルとアジアをイメージした肉春巻きを用意して沢山の注文を受けていました。

ゼミの発表も両日行われ、齋藤ゼミでは「高校生デジタルムービーコンテスト2002」が開催されました。審査員・講師としてプロ映像作家の白川リュウジ氏を招いて自らの作品紹介や、

受賞した作品への講評、ディスカッションなどが行われ、高校生だけでなく多摩大学の学生も有意義な時間を過ごしていました。望月ゼミでは「日本プレゼンテーション学会」の発足を記念して学生によるプレゼンテーション大会が行われました。参加したのは望月ゼミの学生以外にも多くのゼミが参加し、昨年「大学発ビジネスプラン・コンペかわさき2001」にて(株)ケイエスピー賞を受賞した北矢ゼミの有志チームや星野ゼミなどが参加しました。

サークルの発表としては音楽連合の各バンドが発表を行い、大音量の中それぞれのバンドが演奏を行いました。また大教室では演劇サークル「サザンクロス」が『また逢おうと竜馬は言った』を公演しました。毎年学園祭で本格的な演劇を公演しているサザンクロスには多くの観



焼きそばを作る学生たち

客が集まり、熱い濃い演技を披露していました。

今年の学園祭は例年以上に地域の方との接点を大切にしましたので、特に小学生や親子連れの家族が目立ち、今まで以上に多摩大学を知ってもらえたのではないかと思います。

多摩大ふぁん倶楽部ホームページで2日間の学園祭レポートを写真入りで公開しています。是非ご覧下さい。(URL: <http://join.tama.ac.jp/>)



アジアをイメージした野田ゼミの屋台



親子連れでにぎわったフリーマーケット

## 多摩大学平成15年度入学試験間近に迫る

深まり行く秋とともに各大学での、平成15年度入学試験がいよいよ本格化して来ています。本学でも11月16日(土)公募推薦入試、翌17日(日)指定校推薦入試が実施されました。(応募状況は別表のとおり)両日とも肌寒さを感じる陽気でしたが、試験会場に集合する受験生の皆さんには緊張感の中にもオープンキャンパスやオープン授業などに参加していることから来る余裕も垣間見られました。

ところで、どの大学に進学するのかを選ぶ基準はそれぞれに異なります。高校で学んだことが大学での学びにどのように結びつくのか、自分の描く目標や夢がどの大学ならば実現できるのか、また自分がどの大学に行けば変わることができるのか、などなど様々な基準のもとに自分の進むべき方向を探していることと思います。「あの大学ならば安心だから」とか「友だちが行くから」もひとつの理由となるとは思いますが、大切な時期に過ぎず4年間であり、取ってオーバーに言えば人生を決める貴重な時間ですから慎重に取り組むことが求められます。

多摩大学では自分の「生き方」を見つけ、専門性の高い知識や技能を身につけられるように配慮

したカリキュラムを用意して、これまでに修得した知識や技能をより高めるとともに、「やりたい」と思うことや「なりたい」と思う「力」を積極的に伸ばすための環境づくりに前向きに取り組んでいます。例えば、新入生全員に無線LANが内蔵されたノート型パソコンの貸与があります。今や社会的趨勢になってきている情報の収集、伝達、分析などはWeb上で展開するという現実を踏まえた教育の一環でもあります。また「自己発見」という講義や「イングリッシュ・シャワー」の授業は自分の生き方や社会とのかかわりを学び、グローバル化する社会での自立を促すと同時に、小グループでの学習を通して、強調性を高め個性を磨くことに配慮し構築されています。これらを含めた教育実践のもとで、多摩大学の就職率は開学以来常に100%に近い達成率を堅持いたしております。これは多摩大学の「学び」が、社会的に評価を得ている証明と言えるでしょう。

### <別表 公募推薦入試、指定校推薦入試の応募状況>

	公募推薦	指定校推薦
募集人数	30名	40名
志願者人数	45名	41名

## <多摩大学平成15年度一般入学試験>

試験方式	募集人数	試験科目	願書受付	試験日
センター利用入試	64名	必須科目：外国語(英、独、仏、中、韓)から1科目を選択 選択科目：必須科目以外の科目から2科目選択	1/6(月)～ 2/6(木)	1/18(土) 1/19(日)
一般入試Ⅰ	100名	必須科目：英語(英・英II)、 国語(国・国II)古文漢文は 除く 選択科目：地歴(日本史B、 世界史B)、公民(政経)、 数学(数I、数A、数II)の範囲か ら出題から1科目を選択	1/6(月)～ 1/31(金) ※2/4(火)	2/6(木)
一般入試Ⅱ	24名	事前課題審査 基礎能力+基礎学力 面接	2/14(金) ～3/3(月) ※3/5(水)	3/7(金)
チャレンジ入試	6名	事前課題審査 基礎能力+基礎学力 面接	1/6(月)～ 1/20(月)	2/1(土)

※締切日以降インターネット出願できる期日

入学検定料は、センター試験利用入試が15,000円、他はいずれも30,000円です。

## <新入生「成績優秀者奨学金」制度について>

多摩大学では学業成績が優秀で人物・健康ともに優れ、他の学生の模範となり将来の活躍を期待できる新入生に奨学金を給付する「成績優秀者奨学金」制度があります。実施要項は下記の通りです。(一般入試Ⅰ期、Ⅱ期、センター試験利用入試に適用)

区分	奨学生数	奨学金支給額
1	新入生のうち5名以内	入学時に納入すべき学費の全額
2	新入生のうち20名以内	初学期分の授業料

詳細情報、更新情報は多摩大学ふぁん倶楽部入試情報ホームページをご覧ください。  
URL: <http://join.tama.ac.jp/>

# TOPIC

## 「多摩大学フォーラム'02」に 多数の企業が参加

11月13日(水)ルネッサンスセンターにおいて、恒例の就職フォーラムが開催され、日頃お世話になっている企業の採用担当者の方々約110名にお越し頂きました。第1部の講演会では、麗澤大学教授の高巖氏と朝日新聞論説委員の荻野博司氏に、企業の社会的責任・企業倫理の在り方をキーワードに「企業統治」「法令遵守」について、それぞれ違った角度で講演をして頂きました。これを聞いた参加者の中には、企業人として耳が痛い話もあったが非常に有意義な話だったなど率直な意見も寄せられました。

また第2部の懇親会では、中谷巖学長をはじめ大勢の教職員も参加し、採用担当者との間で来年の3年生の就職について様々な意見が交換されました。非常に盛況で賑やかな雰囲気の中で閉会しました。



真剣に講演に聴き入る参加者

## 出井ソニー会長が講師に登場

この5月に渋谷マークシティにあるルネッサンスセンターで開講した、40歳代で世界に通用するCEO(最高経営責任者)を育てることを目的とした「40歳代CEO育成講座」(略称CFP)も折り返し点を過ぎ、マクロ視点からミクロにフォーカスしたプログラムを展開中である。この講座はMBAコースのようなマネジメント教育とは全く異なったリーダーシップ研修である。12月初旬には4グループに分かれ、欧米を中心に世界の優良企業に調査に行く。11月25日にはソニーのCEOである出井会長を講師に招き、「日本企業の構造問題」について講話及びディスカッションを行うと共に初めて多摩大学大学院生がこの講座に参加した。オープンナレッジというコンセプトに基づく知的創発の場

が、ルネッサンスセンターを中心に今後ますます活発化していこう。

## 「SE・SI就職合同セミナー in渋谷'02」開催

12月6日(金)、今年も「SE・SI就職合同セミナーin渋谷」を開催することが決まりました。これは多摩大学が主催し、参加各大学の就職を控えたSE希望の3年生を対象に行うものです。企業の採用担当者にも好評で、2年目の今年の参加企業数は、情報サービス業を中心に20社。昨年より多くの学生の参加が期待できそうです。

(参加予定大学) 青山学院大学、工学院大学、産能大学、産能短期大学、東海大学、中央大学、日本女子大学、多摩大学  
(参加予定企業) 味の素システムテクノ、アルゴ21、住生コンピューターサービス、第一生命情報システム、日立情報システムズなど

## 中谷巖の痛快日記

### 今こそ求められる歴史意識

多摩大学学長 中谷巖

将来の歴史家が現代日本の状況を描くとき、おそらくは非常に大きな転換期にあったという書き方をするだろう。日本経済は何十年に一度というようなデフレ状態にあるし、不良債権処理で大企業の倒産は続出するし、教育の在り方が根本から問われているし、戦後の価値観も急転換しているし、歴史家にとっては興味の尽きない時代のはずである。問題は、そういった大きな転換点にいる我々が十分な歴史意識を持って毎日を送っているかどうかということだ。毎日の雑事に追われるだけでなく、なんとかして歴史の大きな流れに棹さしながら、生きたいものだ。

このコーナーでは毎号 中谷巖学長の一口メッセージをお伝えします。多摩大学、ラポールについてご意見ご感想を<http://www.tama.ac.jp/rapport/>までどしどしお寄せ下さい。